

新党日本代表 田中康夫 質疑

2011/07/6(水) 9:25~9:31

第177回国会(通常国会)

衆議院 予算委員会

延長国会における諸課題に関する集中審議
「脱・原発依存」、「でんき予報」の謎について



さあ、信じられる日本へ。

新党日本
nippon-dream.com

○中井委員長 次に、田中康夫君。

○田中(康)委員 新党日本の田中康夫です。

亀井静香率いる国民新党・新党日本を代表して、本日は、でんき予報のなぞに関して、また、実現すべき日本の脱原発依存に関して質問します。

最初に、節電啓発担当大臣の細野豪志さん、東京電力を初めとする電力五社のでんき予報、これは信頼に値しますか、東電任せで大丈夫ですか。

○細野国務大臣 でんき予報についてお尋ねをいただきます。

このでんき予報は、各電力会社において、直近のデータをもとに分析した翌日の電力需要の見通し、及びそれを踏まえて各社において用意をした電力供給をもとに各電力会社が算出をして発表しているものでございます。

○田中(康)委員 国民の素朴な疑問に答える形で東電のでんき予報に疑問を呈した産経新聞、六月

二十九日付産経ビズによれば、公開している本日のピーク時供給力は、あくまでも東電が決めた目安にすぎず、本来の供給力とは関係ない、節電意識を促すために恣意的に下げていると指摘されても仕方ない、しかも、これまで公開していた発電実績資料をホームページから突如削除した東京電力には、まだ供給力に含んでいないいわゆる隠し電力もあると。地域独占企業体の電力会社はオオカミ少年で、なのに私たちはその言いなりになっ

ていないかと警鐘を鳴らす秀逸な記事でした。

こちらをごらんいただきたいと思えます。

実際問題、電気事業連合会編さんの電気事業便覧最新版では、二〇〇九年、平成二十一年、原子力を除いた火力と水力の発電供給容量は約一億八千八百万キロワット、この年最も電力需要が高かった八月七日、この日が約一億五千九百万キロワット、差し引き二千九百万キロワット、つまり、原発がすべて停止し、火力と水力だけだったとしても、その供給量に対する使用量は八四%、一六%も余裕があります。

欲しがりません勝つまではみたいな説教強盗的な隣組監視型の大政翼賛節電を、体温調整が難しい老人や子供、病人に強いて、命が失われる事態を避けねばなりません。住宅街の街灯が消えて、痴漢や強盗の悲劇が増加するのを防ぐのも政治の役目です。

私は、考えてみれば、電力需要というのは午後三時をピークにその前後の二、三時間でございませすから、朝日新聞と高野連に対し、ことしの夏の甲子園は朝六時からの早朝試合を導入し、午後一

時から四時の三時間を除いた試合日程にさせる、これこそ忘れかけていた政治主導かと思えます。

もう一点、メルトダウン、炉心溶融から、今やさらに深刻なメルトスルー、溶融貫通状態であります。東電も政府も真実を語っていないのではと、国民が疑心暗鬼な東電福島第一原子力発電所事故を、関西経済界のリーダーたちがどうとらえているか、まとめてみました。

国民の生命を守る観点から原発の停止は当然だ、川崎重工業会長の大橋忠晴さんです。原子力推進派だったのが認識を変えた、南海電鉄会長の山中諄さんです。そして、関西経済同友会代表幹事に就任した大林剛郎さんは、関電の美浜原発第一号の原子炉建屋を初め数多くの原子炉関連施設を手がけてきた大林組の会長です。その彼は、三月十一日以降の原発の新規立地は難しい、短中期的には原発の安全性を高めてリスクを限りなく下げ、太陽光、風力、地熱発電等再生可能エネルギーの技術力や効率を高めていくしか日本では道がないと答えています。さらに、住友電気工業社長で関連副会長の松本正義さんは、現在の送電線は銅線の電気抵抗が約五%の電力が失われている、このロスが原発数基分の発電量に当たる、超電導の技術を導入した送電線にすれば送電ロスを大幅に減らせると。すなわち、新しい雇用創出と経済効果を生み出す具体的提言も行っております。

脱原発依存こそ二十一世紀の成長戦略、これが今や、地域独占企業、関西電力以外の関西財界の主流であります。まさに、今後十年間ですべての原発を閉鎖する法案を国会が可決したドイツと同

じ意識で、尼崎を選挙区とする私にとっても、これは誇りであります。

ぜひ、こういった点、まさに浜岡原発が、防潮堤ができるまでの二年間の限定にすぎなくて、そして具体的根拠も示さぬまま既存原発の安全宣言を出すというような形では、具体的工程表を示さねば理にかなっていないと国民は疑心暗鬼になります。この点に関して、改めて菅さんの御見解をお伺いしたいと思います。

○中井委員長 恐縮ですが、時間が来ておりますので、答弁は控えていただきたいと思います。
これにて田中君の質疑は終了いたしました。